

## 非結核性抗酸菌症

非結核性抗酸菌は、菌の分類では結核菌の仲間ですが、結核菌のように、人体に強い病原性を持つものではありません。免疫力の低下した人や、弱っている部位に住みつき、主に細胞の中で、ゆっくり増殖し病気の原因になります。160種類ほど発見されていますが、主なものは、マイコバクテリウム・アビウム、マイコバクテリウム・イントラセルラーレでMAC（マック）と呼ばれています。他に、マイコバクテリウム・カンサシなどが、病原菌となります。

これらの菌は、水や土等生活環境の中に、どこにでも存在しています。40歳以上の成人は、約30%が感染していると推定されているのですが、発病に至る因子については、まだわかっていません。体質的なものが関与しているのではないとも言われています。人から人への感染はまれですが、近年増加してきています。

肺の感染症が主なもので、咳、痰、全身倦怠感があり、進行すれば、発熱や呼吸困難も出現してきます。一般的には、胸部X線やCT、喀痰検査で診断されます。O-リングテストで調べていきますと、非結核性抗酸菌が関わっている病的部位は、肺以外にも、多く見られます。関節、副鼻腔、眼、耳、肝臓、歯槽、歯肉、皮膚などです。漫然とステロイド軟膏を塗布していた皮膚では、潰瘍病変に増悪している場合もみられます。また、歯周病の中には、この菌の感染も多いのではないのでしょうか。

治療には、抗結核薬などが使われますが、有効性は50%以下で、副作用もあり、軽症の場合は、治療しないという選択をすることもあるようです。

10数年前に、肺結核治療中の20代の女性が、相談にみえました。抗結核薬による薬疹が出ていて、肺の状態も良くありませんでした。O-リングテストで、抗生剤や、抗菌作用を持つものを、幅広く調べた結果、オリーブの若葉（ユーロペン）が、肺に有効であることが判明し、服用してもらいました。薬疹も消え、肺の症状も、著しく改善しました。

その後、非結核性抗酸菌にも有効ではないかと思い、様々な症状の非結核性抗酸菌症に使用し、多くの方に有効であることがわかりました。最も良い効果を得るための服用量は、かなり個人差があります。また、皮膚病変には、内服と同時に、オリーブ若葉軟膏を作り、塗布することが効果的です。但し、良くなっても、免疫力低下で再発しやすいため、菌の反応が消えても、6ヵ月以上は続ける必要があるようです。

もう1つ重要なことは、食事の改善です。アレルギーの負荷と、過食は、免疫力を低下させる大きな要因です。更に、砂糖、糖質、リノール酸系の油脂を減らして、生や加熱した野菜を、よく噛んで、多く取り入れることが大切です。ガンの食事療法で高名なゲルソン医師は、先に、シュバイツァー博士の奥方の肺結核を、食事療法のみで治したのだそうです。どのような薬物療法に際しても、同時に食事療法が不可欠だと思います。